

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

皆様におかれましては、平素から TCER の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、ありがとうございます。皆様のお力を借りて、2012 年度も充実した活動を展開することができました。もっとも多くの経済学研究者、とりわけ中堅・若手の方々に積極的にご参加いただけるよう、背伸びをしすぎない範囲で工夫をこらしていきたいと考えています。

TCER プロジェクト（旧逗子コンファレンス）の予算を投入し、Western Economic Association International (WEAI)、慶應義塾大学、慶應＝京都 GCOE と共催した 10th Biennial Pacific Rim Conference（2013 年 3 月 14～17 日、慶應三田キャンパス）は、過去の同コンファレンス・シリーズを大きく上回る約 550 名の国内外研究者の参加を得て、成功裏に終了しました。来年度からは再び旧逗子コンの形に戻し、2 年単位で研究会を立ち上げ、研究書を出版していける体制を整えていきます。

ワーキングペーパーの活性化につきましては、投稿システムを大幅に改定して利便性を高め、査読者も一新、さらに RePEc や SSRN などの国際的な経済研究論文サイトとの接続も確保することにより、より積極的に使っていただける体制を整えつつあります。

また 2013 年度からは、ジャカルタに本部を置く国際機関、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) の委託を受け、「東アジアの経済統合」と題する 10 冊程度の本のシリーズを今後 3 年間かけて出版していくことを計画しています。さらに、東芝国際交流財団から研究助成を受け、東南アジアにベースを置く研究者を 3 ヶ月程度日本に呼び寄せて共同研究を促すプログラムを企画中です。

経済同友会の皆様からは、引き続き大きな財政的支援を受けています。少しでもお役に立てるものをお返しすべく、経済同友会＝TCER セミナーの一層の充実を図っています。2012 年度は、「新しい資本主義」をテーマにセミナー・シリーズを企画し、その締めくくりとして 12 月には青木昌彦先生その他をお招きしてミニシンポジウムを開催しました。その後は、さまざまな分野で活躍する中堅・若手研究者にご登壇いただき、活発なセミナーを開催しています。

引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく申し上げます。

木村福成(代表理事・慶應義塾大学)

(2) 2012年度後半の理事会報告

2012 年度第 2 回理事会は、2013 年 2 月 18 日（月曜日）10 時～12 時、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。

平成 25 年度の事業計画書及び平成 25 年度の予算書が承認されました。ワーキングペ

ーパー投稿規程の改定について審議がおこなわれました。また、3名の新規フェローの入会も承認されました。

報告事項として、ウェブサイトのリニューアル計画、ワーキングペーパー投稿システムの改定、SSRN Research Paper Series への加入と RePEc 対応機能の付加などについて説明がありました。RePEc アーカイブコードを取得する旨報告があり、了承されました。

(3) 2012年度後半の評議員会報告

2012年度第2回評議員会は、2013年3月12日（火曜日）9時15分～10時00分、日本工業倶楽部で開催されました。平成25年度の事業計画書及び平成25年度の予算書が承認されました。

業務の執行状況について、ワーキングペーパー投稿システムの改定に関する説明がありました。

(4) ワーキングペーパー投稿システムの更新

TCERでは、ホームページ及びワーキングペーパー投稿サイトの大規模な改定による刷新をおこないます。2013年3月末から5月中旬の予定で実施します。改訂期間中はワーキングペーパーの投稿機能等が一時的に閉鎖される予定です。改定期間中、ご不便をおかけいたしますこと、お詫び申し上げます。尚、改定後は日本語及び英語によるホームページ、格段に入力し易くなったTCERワーキングペーパーの投稿機能など、大幅な刷新が行われる予定です。

(5) 所属先変更のご連絡のお願い

今年度中に所属先が変更になった方、新年度から変更になる方は、お手数おかけしますが、TCER事務局（tcer@mbs.sphere.ne.jp）までご連絡下さい。また、メールアドレスの変更を希望なさるフェローも同様に事務局までご連絡ください。

必要事項は、氏名（フリガナ）、所属先、所属先住所（郵便番号）、電話番号、メールアドレスです。

(6) 2013年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、経済学研究者であればTCERフェローに限らずどなたでも応募することができる個人研究助成を行っています。お知り合いにもご紹介下さい。

本制度設立の趣旨：本研究助成制度は、TCERフェローを含む経済学研究者の個人及び相互による経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的としています。

応募資格：大学および研究機関に所属する経済学研究者（TCER フェローでなくてもよい）。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

助成対象期間：2013年4月～2014年3月

報告義務：2014年2月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センター・ワーキングペーパーとしてまとめること。これは RePEc や SSRN の TCER リサーチペーパーシリーズにも入ることになります。（なお研究成果の提出は2015年8月末まで延長できるものとします。）

助成金額：1件当たり最高40万円

応募締め切り：2013年5月7日(火)午前9時

応募用紙：所定の応募用紙に入力し、Word ファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER 事務局 メールアドレス (tcer@mbs.sphere.ne.jp)

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 日米欧研究交流事業 (TRIO コンファレンス) 報告

本年度の TRIO コンファレンス（共催：NBER および CEPR）は、園部哲史（GRIPS）、福田慎一（東京大学）、および星岳雄（スタンフォード大学）の3名（敬称略）がオーガナイザーとなり、「開発経済学における社会実験：その成果と新しい方向性

(Experiments for Development: Achievements and New Directions)」をテーマとして、2013年3月18日と19日の両日、政策研究大学院（GRIPS）で開催されました。

開発経済学は、構造政策の失敗で一時期衰退しましたが、近年「開発経済学革命」と呼ばれるほど深化しています。現在、世界の経済学をけん引する米国の有力大学でも最も人気のある研究分野となりつつあり、多くの若手研究者が次々に論文を発表しています。なかでも、「社会実験」によるエビデンスに基づいた政策形成という新しい潮流が生まれています。「社会実験」では、ランダム化比較試験を使って、開発援助で何が実際に役に立っていて、何が役に立っていないのかを調査する方法が主流となっています。

開発援助の分野で重視されるものは流行の推移が激しく、本当に役立っているものが何なのかあまりわかっていないのが現状でした。たとえば、MDGs（ミレニアム開発目標）の中でも普遍的な初等教育の推進は大きな位置を占めました。しかし、MDGs では具体的な政策手段はあげられず、就学年数を延ばすのに有効な政策は何なのかはオープン・クエスチョンでした。そこで社会実験の活用が期待されるようになりました。

TRIO コンファレンスでは、これら開発経済学の最先端の研究が活発に議論され、大変有益なコンファレンスとなりました。

なお、報告論文は、通常のレフェリー・プロセスを得て、TCER Working Paper Series および Journal of Japanese and International Economies の特集号に掲載される予定です。

プログラム

2013年3月18日(月)

Chair: Takeo Hoshi, Stanford University and NBER

10:15 am

発表者: David McKenzie, World Bank、Francisco Campos, World Bank、Aidan Coville, World Bank、Ana Fernandes, World Bank、Markus Gdstein, World Bank

論文: Learning from the Experiments that Never Happened: Lessons from Trying to Conduct Randomized Evaluations of Matching Grant Programs in Africa

討論者: Keijiro Otsuka, GRIPS

11:15 am

発表者: Tetsushi Sonobe, GRIPS、Yukichi Mano, Hitotsubashi University

論文: Teaching KAIZEN to Small Business Owners: An Experiment in a Metalworking Cluster in Nairobi

討論者: Yoshito Takasaki, University of Tsukuba

12:15 pm Lunch

Chair: Tetsushi Sonobe, GRIPS

1:30 pm

発表者: Alistair Munro, GRIPS、Bereket Kebede, University of East Anglia
Marcela Tarazona-Gomez, University of East Anglia、Arjan Verschoor, University of East Anglia

論文: Autonomy and Efficiency. An Experiment on Household Decisions in Two Regions of India

討論者: Maria Socorro Gochoco-Bautista, Asian Development Bank

2:30 pm Coffee Break

2:45 pm

発表者：Tahir Andrabi, Pomona College、Jishnu Das, World Bank、Asim Ijaz Khwaja, Harvard University and NBER

論文：Understanding Educational Markets: A Sentinel Approach

討論者：Yukichi Mano, Hitotsubashi University

3:45 pm

発表者：Tomoya Matsumoto, GRIPS

論文：Disseminating New Farming Practice among Small Scale Farmers: Experimental Intervention in Uganda

討論者：Takashi Kurosaki, Hitotsubashi University

2013年3月19日(火)

Chair: Shin-ichi Fukuda, University of Tokyo

9:30 am

発表者：Russell Toth, University of Sydney、Alex Oo, University of Sydney

論文：Using Framed Field Experiments to Understand Market Behavior in Developing Countries: Do Community-Sanctioned Social Pressures Constrain Microenterprise Growth?

討論者：Masahiro Shoji, Seijo University

10:30 am

発表者：Hisaki Kono, Institute of Developing Economies

論文：Microcredit Games with Noisy Signals: Collision or Free-Riding?

討論者：Bhanupong Nidhiprabha, Thammasat University

(2) 東アジア研究交流事業(東アジア経済セミナー)のご案内

2013年度NBER-TCER東アジア経済セミナーは、2013年6月14-15日にニュージーランド、ウェリントン市において、ヴィクトリア大学他をローカル・オーガナイザーとして開催の予定です。

(3) 環太平洋地域研究交流事業(アジア危機コンファレンス)のご案内

2013年度環太平洋地域研究交流事業は、2013年7月27、28日に大阪大学で開催予定です。経済危機が日本経済およびアジア経済に及ぼす影響やその関連テーマを中心に議論する予定です。

(4) TCER コンファレンス事業 (旧返子コンファレンス, WEAI パシフィックリムコンファレンス) 報告

2012年度 TCER コンファレンスは、Western Economic Association International、慶應義塾大学大学院経済学科及び商学研究科、京都大学経済研究所、慶應-京都グローバル COE との共催で、2013年3月14-17日に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催されました。550名を超える国内外の研究者が一同に会し、盛況でした。プログラム等は次のサイトにあります。<http://www.weai.org/PacRimConf>

TCER では TCER 特別セッションを設け、3月16日に Yeon-Koo Che (Columbia University), Fuhito Kojima (Stanford University), Yuichiro Kamada (Yale University and University of California, Berkeley) 氏を招待して "Frontier of Market Design" というセッションを開催し、大変好評でした。

公2 学術研究交流促進事業

(1) ミクロ経済分析事業 (2012年度 TCER ミクロコンファレンス・DC コンファレンスとの共同開催) 報告

2012年度 TCER ミクロコンファレンスは、9月15日(土)、16日(日)に、第18回デイ セントライゼーション・コンファレンス(DC)との共催で、関西大学にて開催されました。本年度は昨年度に引き続き2日間の開催となりました。芹澤成弘教授、松島斉教授のお二人を招待講演者としてお迎えし、若手研究者の意欲的な発表も多く、有意義な議論がおこなわれました。

本コンファレンスは、次年度は日本経済学会秋季大会の前日である、9月13日(金)に横浜国立大学にて開催される予定です。

今年度のプログラム委員は梶井厚志(京都大学)、国本隆(一橋大学)、小林創(関西大学)、清水崇(関西大学)、関口格(京都大学)、宮川敏治(大阪経済大学)、渡邊直樹(筑波大学)の7名でした(敬称略)。プログラムは以下の通りです。

September 15

<会場 A.> チェア：清水崇(関西大学経済学部)

(1) 13:00-13:45

Resource Allocation Problems with Extended Preferences

発表者：長久領壺(関西大学経済学部)

(2) 14:00-14:45

Average Tree Solution and Core for Cooperative Games with Graph Structure

発表者：五十嵐歩美(筑波大学システム情報工学研究科)

<会場 A.> チェア： 若山琢磨 (龍谷大学経済学部)

(3) 15:00-15:45

Renegotiations and the Diffusion of a Technology with Positive Externalities

発表者：平井俊行 (富山大学経済学部)

(4) 16:00-16:45

Natural Implementation with Partially Honest Agents

発表者：吉原直毅 (一橋大学経済研究所)

<会場 B.> チェア： 佐野隆司 (大阪大学社会経済研究所)

(1) 14:00-14:45

An Experimental Evaluation of an Approximation Algorithm for Single-item Multi-unit Auctions

発表者：伊豆永洋一 (筑波大学システム情報工学研究科)

(2) 15:00-15:45

A Multiattribute Decision Time Theory

発表者：小井田伸雄 (岩手県立大学総合政策学部)

17:00-18:00

<会場 A. 招待講演 1> チェア：梶井厚志 (京都大学経済研究所)

Strategy-proofness and Efficiency with Nonquasi-linear Preferences: A Characterization of Minimum Price Walrasian Rule

発表者：芹澤成弘 (大阪大学社会経済研究所)

September 16

<会場 A.> チェア：長久領壺 (関西大学経済学部)

(1) 10:00-10:45

Optimal Design of Scoring Auction with Multidimensional Quality

発表者：西村健 (一橋大学経済学研究科)

(2) 11:00-11:45

The Vickrey-Target Strategy and the Core in Ascending Combinatorial Auctions

発表者：佐野隆司 (大阪大学社会経済研究所)

<会場 B.> チェア：清水崇 (関西大学経済学部)

(1) 10:00-10:45

Strategic Determination of Renegotiation Costs

発表者：村本顕理 (京都大学経済学研究科)

(2) 11:00-11:45

Intellectual Property Right Protection in the Software Market

発表者： 新井泰弘（青森公立大学経営経済学部）

昼休み

<会場 A.> チェア：吉原直毅（一橋大学経済研究所）

(1) 13:00-13:45

Deadline and Welfare Effects of Scheduling Information Releases

発表者：Giulio Seccia（Southampton）

(2) 14:00-14:45

Existence of a Pure Strategy Equilibrium in Finite Symmetric Games where Payoff Functions are Integrally Concave

発表者：渡辺隆裕（首都大学東京都市教養学部）

(3) 15:00-15:45

An Equity Characterization of Second Price Auctions when Preferences may not be Quasilinear

発表者：坂井豊貴（慶応大学経済学部）

<会場 B.> チェア：宮川敏治（大阪経済大学経済学部）

(1) 13:00-13:45

Strategic Information Transmission with a Principal who can Acquire Information

発表者：堀一三（立命館大学経済学部）

(2) 14:00-14:45

Coalition-proofness in Aggregative Games with Strategic Substitutes and Externalities

発表者：Federico Quartieri (IULM)、篠原隆介（法政大学経済学部）

16:00-17:00

<会場 A. 招待講演 2 > チェア：関口格（京都大学経済研究所）

Role of Leverage in Bubbles and Crashes

発表者：松島齊（東京大学経済学部）

17:05-17:15 Closing Note

(2) マクロ経済分析事業（2012年度 TCER マクロコンファレンス）報告

2012年度（第14回）TCER マクロコンファレンスは、2012年12月8日(土)、9日(日)に、大阪大学大学院経済学研究科・社会経済研究所等グローバルCOEプログラ

ム「人間行動と社会経済ダイナミクス」、東京大学大学院経済学研究科「長期デフレの解明」プロジェクト、一橋大学経済研究所 物価研究センター、TCER の共催の下、大阪のホテル阪急エキスポパークにて開催されました。オーガナイザーはチャールズ・ユウジ・ホリオカ（大阪大学）、渡辺努（東京大学）、阿部修人（一橋大学）、またプログラム委員は小川一夫（大阪大学）、青木浩介（東京大学）、塩路悦朗（一橋大学）でした（敬称略）。

例年通り、報告論文に関しては公募を行い、多くの中から厳選された 8 本の論文、及び中嶋智之氏による招待講演と合計 9 人による報告が行われました。マクロコンファレンスでは、一つの報告において、20 分の報告、20 分の指定討論者によるコメント、および 20 分のフロアを含む議論の時間が設定されています。通常の学会と比べて多くの討論時間を確保しており、今回も、各セッションで非常に活発で質の高い議論が繰り広げられました。報告内容も、銀行への公的資金注入、住宅価格の国際間連動、長期金利、金融危機対策、日本の生産性、男女間の賃金格差、離散的な企業投資と総需要ショック、中国における資本蓄積など、マクロ経済学の各分野に渡る幅広いものであり、コメントも多岐にわたりました。

また、中嶋氏による招待講演は企業の不良債務リストラと生産性低迷の関係に関する新たな理論モデルを提示する意欲的なものであり、活発な質疑応答が行われました。プログラムは以下の通りです。

12月8日（土）

12:30 開場・受付開始

セッション 1：金融とマクロ経済学

座長：チャールズ・ユウジ・ホリオカ（大阪大学）

13:00-14:00 渡部和孝（慶応義塾大学）

“Public capital, the deposit insurance and the risk-shifting incentives: evidence from the regulatory responses to the financial crisis in Japan”（Brahim Guizani との共著）

コメント：小野有人（みずほ総合研究所）

14:00-15:00 平田英明（法政大学）

“Global house price fluctuations: synchronization and determinants”（M. Ayhan Kose、Christopher Otrok、Marco E. Terrones との共著）

コメント：柴本昌彦（神戸大学）

セッション 2：長期金利

座長：阿部修人（一橋大学）

15:30-16:30 一上響・清水雄平（日本銀行）

「長期金利の変動要因：主要国のパネル分析と日米の要因分解」

コメント：小枝淳子（東京大学）

招待講演

座長：阿部修人（一橋大学）

16:30-17:30 中嶋智之（京都大学）

“Default and debt restructuring: a model of persistent debt overhang”(小林慶一郎との共著)

12月9日（日）

セッション3：マクロ経済理論の新展開

座長：塩路悦朗（一橋大学）

9:00-10:00 片桐満（日本銀行）

“Managing financial crises: lean or clean?”（加藤涼、敦賀貴之との共著）

コメント：戸村肇(北海道大学)

10:30-11:30 須藤直（日本銀行）

“Productivity slowdown in Japan’s lost decade: how much of it is attributed to financial factors?”（武藤一郎、米山俊一との共著）

コメント：加納隆（一橋大学）

11:30-12:30 白井大地（キヤノングローバル戦略研究所）

“The impacts of firms’ technology choice on the gender differences in wage and time allocation: a cross-country analysis（長町康平、江口尚孝と共著）

コメント：安井大真（神戸大学）

セッション4：資本蓄積とマクロ経済

座長：青木浩介（東京大学）

13:30-14:30 楡井誠（一橋大学）

“A microfoundation of investment demand shocks”

コメント：荒戸寛樹（信州大学）

14:30-15:30 顧濤（一橋大学大学院生）

「雇用主の独占力、不完全な企業統治及び過剰資本蓄積について：中国経済のケース」

コメント：大土井涼二（東京工業大学）

15:30 閉会

(3) 若手研究者育成支援事業 (2012 年度ジュニアワークショップ) 案内

TCER ジュニアワークショップは、一橋大学世代間問題研究機構(CIS)、年金シニアプラン総合研究機構(RIPPA)、Japanese Women Economists Network との共催で、3月3日(日)に慶應義塾大学三田キャンパスで開催されました。

午後の部では、公募した7人の若手研究者がそれぞれ20分間、英語で論文報告を行いました。会場の参加者、午前の部のシニア経済学者が報告の方法、内容についてコメントを行いました。普段英語で報告する練習機会があまりない若手の方々に大変好評でした。

プログラムは<http://dl.dropbox.com/u/77921380/JWEN/intergenerational-studies.html>にあります。

(4) TCER 定例研究会 (2012 年度 TCER 研究会) 報告

2012年度のTCER研究会は慶應義塾大学にておこなわれています。使用言語は基本的に英語です。フェローの方はいつでも参加できます。詳細は以下のサイトをご覧ください (<http://web.econ.keio.ac.jp/org/pubecon/pubecon.html>)。

September 28 (Fri) 4:30-6:00

Kawagoe, Toshiji (Future University Hakodate)

"Guilt Aversion Revisited: An Experimental Test of a New Model"

October 5 (Fri) 4:30-6:00

Nakajima, Ryo (Keio University)

"Estimating the Effects of Pronatal Policies on Residential Choice and Fertility"

October 12 (Fri) 4:30-6:00

Hirano, Tomohiro (University of Tokyo)

"Asset Bubbles and Bailout"

October 19 (Fri) 4:30-6:00

Abe, Yukiko (Hokkaido University)

"Historical development of regional differences in women's participation in Japan"

October 26(Fri) 4:30-6:00

Kawaguchi, Daiji (Hitotsubashi University)

"Fewer school days, more inequality"

November 2 (Fri) 4:30-6:00

Esteban-Prete, Julen (National Graduate Institute for Policy Studies)

"The Labor Market Effects of Introducing Unemployment Benefits in an Economy with High Informality"

November 9 (Fri) 4:30-6:00

Furusawa, Taiji (Hitotsubashi University)

"International Trade and Income Inequality" (joint with Konishi, Hideo)

November 16(Fri) 4:30-6:00

Ono, Hiroshi (Texas A&M University)

"Welfare States and the Redistribution of Happiness"

November 28(Wed) 4:30-6:00

Clark, Andrew (Paris School of Economics)

"Preferences over Pay Profiles: Evidence from a High-Quit Industry" (joint with Burks, Steve)

November 29(Thu) 4:30-6:00

D'Ambrosio, Conchita (University of Milano-Bicocca)

"Poverty and Well-Being: A Longitudinal Perspective"

November 30(Fri) 2:45-4:15

Tateishi, Hiroshi (J) (Nagoya University)

"Payoff Equivalence Theorem with Rich Type Space"

November 30(Fri) 4:30-6:00

Yasuo, Hirose (Keio University)

"Identifying News Shocks with Forecast Data"(joint with Kurozumi, Takushi)

December 7 (Fri) 2:45-4:15

Sano, Ryuji (Osaka University)

"A Dynamic Mechanism Design with Intertemporal Complements and Long-Term Contracts"

December 7 (Fri) 4:30-6:00

Nagakura, Daisuke (Keio University)

"State Space Method for Quadratic Estimator of Integrated Variance in the Presence of Market

Microstructure Noise"

December 14 (Fri) 2:45-4:15

Nakao, Keisuke (University of Hawaii at Hilo)

"Spread of Anti-Hegemonic Wars: From Peripheral Areas to the Heartland"

December 14 (Fri) 4:30-6:00

Yamamura, Eiji (Seinan Gakuin University)

"Effects of siblings and birth order on income redistribution preferences."

December 21 (Fri) 4:30-6:00

Ogaki, Masao (Keio University)

"Cultures, Worldviews, and Intergenerational Altruism"

January 18 (Fri) 4:30-6:00

Sawada, Yasuyuki (Tokyo University)

"Incentives and Social Preferences in a Traditional Labor Contract :Evidence from Rice Planting Field Experiments in the Philippines" (joint with Goto,Jun, Aida, Takeshi, and Aoyagi Keitaro)

編集後記

ホームページ、ワーキングペーパー投稿サイトが大幅に刷新される予定です。今までご不便をおかけすることが多かった投稿システムですが、春先から使い勝手が良くなる予定です。TCERは日本におけるNBERを目標としています。これを機にTCERワーキングペーパーへの投稿が増え、活用されるようになることを期待しています。

フェローの皆様からのワーキングペーパーの投稿をお待ちしております。来年度も宜しく願いいたします。(原田)。

Newsletterに関するご意見やご感想は代表理事木村福成 vzf02302@nifty.ne.jp
または総務理事原田喜美枝 kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp までご連絡下さい。

=====
公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp